

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4571900416
法人名	医療法人 俊生会
事業所名	グループホームこすもす
所在地	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄12146-3 (電話) 0985-75-6204

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成20年6月6日

【情報提供票より】(20年 4月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 4月 12日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7人, 非常勤 人, 常勤換算 7人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	5,000 円	
敷 金	有(60,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,100 円	

(4) 利用者の概要(4月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 90 歳	最低 81 歳	最高 96 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中外科医院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>国富町郊外にあり田園が広がる自然豊かなのどかな雰囲気のある場所にホームは立地している。隣近所に民家もあり交流も多く地域の中に溶け込んでいる。利用者がすべて町内の出身であり、穏やかな表情が印象的である。地域に密着したホームとしての役割を十分に果たしている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題である運営推進会議のホーム独自の開催・介護計画の見直し(3か月毎)については、今回も取組の結果が出ていない現状であったが、介護計画の家族等への説明、了解のサインについては改善がなされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員でそれぞれ自らの日々の業務の振り返りとまではなっていない。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>町内のホーム合同で開催し、ホームごとの活動報告や問題提議・検討がなされている。ホーム単独での独自の運営推進会議開催を実施し、より良い運営・質の向上に期待したい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の訪問は頻繁で職員とのコミュニケーションも取れている。訪問時に意見や苦情を会話の中から引き出し、スタッフで検討し具体的な改善を行っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入しており地域の一員としてホームは活動を行っている。近所の方が農作物などを持ち寄ってくれたり、ホーム行事の時に応援してもらうなど地域との連携は強い。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念があり利用者本位で安心して暮らせるような内容となっている。		地域との強い連携の取れているホームであるが、1年に1回は職員皆で「地域密着」の意味を考え、理念について検討する機会を設けてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を具体的に実践するために毎朝のミーティングで各職員がその日一日の目標を定め発表し取り組んでいる。勤務に当り自ら目標を立て、実践することで質の向上ひいては利用者の安心できる暮らしにつながっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し活動に参加している。近所の方が野菜など持って来てくれたりと交流は盛んである。またホームの行事には近所の方の応援もあり良好な地域との付き合いがもたれている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で評価の意義について理解を深め、職員それぞれの日々の振り返りまではなっていない。		評価項目を全職員に周知し皆で作成し、職員それぞれが日々の業務の振り返りが行えるようお願いしたい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内4ホーム合同で運営推進会議を開催している。	○	ホーム独自の会議の開催により、合同の会議では汲み取れない意見・検討ができるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域ケア担当者会議の開催など、運営推進会議以外にも市町村との連携が図れており、町内4ホームの空き状況などの情報の共有化もされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎日来られる家族もありその都度報告がされている。また各行事の後には報告書(便り)を発行するなどの取り組み、また利用料の支払いはホームで全て受けており、家族が定期的にホームを訪れるようされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から会話の中で意見を引き出し、改善に取り組んでいる。具体的には意見・要望として食事の形態や布団の使用について家族から意見が出され職員皆で検討し改善に取り組んだ。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動・離職は少ないが、その場合利用者に説明を行うなどの配慮を行っている。		行事報告(便り)に職員の移動等記載すると家族へより丁寧なお知らせになると思われる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入の職員は関連医療機関で研修を行い、その後ホームの勤務となる。ホーム内の勉強会や外での研修への参加など、積極的に職員のスキルアップに取り組んでいる。		研修内容の共有化を徹底するため研修報告書に他の職員の確認印等お願いしたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の他のホームとの交流が進んでおり相互の見学など行っている。連絡協議会にも参加し他地域のホームとの交流を図るなど取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	昼のみの利用など体験入居を行っており、馴染みながらのサービス利用への配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から料理、またホーム菜園での作業の方法、工夫を職員は教えてもらい、利用者を頼りにするなどの支えあう関係がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント等、話を徹底的に聞き思いや意向の把握に努めている。		センター方式(一部でも)の活用を行い、利用者の更なる思いや意向の把握に努めてほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを月1回開催し、個々の利用者にあつた介護計画を家族の意向も含め職員皆で行っている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態等の変更が無い利用者など6ヶ月～1年の見直しとなっている。	○	状態等の変更が無い場合でも、毎月のケアカンファレンスを活かして毎月の見直しにつなげてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院への付き添い外泊のアプローチなどホームとして積極的にやっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医及び訪問看護ステーションと良好な関係を作っており適切な医療提供の支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針の作成、説明、同意を行っており看取りまで対応する体制となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応は丁寧でやさしさが感じられた。利用者が頻繁に職員に語り掛け職員がゆっくと良い雰囲気に対応されている。ホーム内の利用者の氏名等掲示は、家族の了解を得て行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床の時間や食事の時間など大まかには決まっているが、利用者に押し付けてはおらず臨機応変・自由さがみられた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材・献立は関連医療機関で準備しているが、ホーム内で調理し、時には利用者の手伝いをもらいながら行っている。食事は職員は別に食している。	○	職員が1人でも利用者と一緒に食事が出来るよう配慮をお願いしたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金とおおまかに入浴日の設定はあるが、利用者の意思を尊重し柔軟に対応している。毎日入浴される方もいるし、以前は夕方入浴される利用者もいた。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	仕事で農業に従事していた利用者が多く、ホーム内の菜園づくりなど楽しまれている。また晩酌の習慣のある利用者も健康管理を十分に行いながら継続させており本人の楽しみとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一度に利用者全てとはいかないが、天気の良い日など頻繁に散歩に出かけるなどの支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中鍵は掛けていない。近所の方々に説明し協力の要請を行っている(利用者がホームから無断で出られた場合など)。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルは火災以外にも地震、風災害なども網羅し作成されている。避難訓練では消防署員の参加を求めするなど積極的な姿勢がみられる。緊急時の地区の連絡網も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の献立により各利用者にあった栄養管理がされている。また、こまめな水分補給の支援を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	昔の和ダンスが廊下にあるなど生活感がある。季節感も配慮されており居間の和室がいごちの良い雰囲気をかもし出している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物が居室には持ち込まれ利用者が落ち着き、心地よく過ごせる空間になっている。		